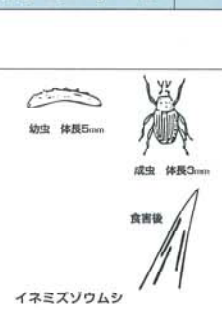
平成27年度 稲作こよみ

津安芸農業協同組合
監修 ＪＡ全農みえ

生育時期

	播種	田植	田植40日後	中干し開始	出穂20日前	出穂18日前	出穂	落水	成熟
みえのえみ	3/26	4/20	5/30	6/5	6/25		7/15	8/12	8/19
コシヒカリ	3/31 4/5~10	4/25 4/30	6/4 6/9	6/9 6/14	7/5 7/8		7/23 7/26	8/21 8/24	8/27 8/30
キヌヒカリ	3/31	4/25	6/4	6/9	7/6		7/26	8/25	9/2
みえのゆめ	4/10~15	5/5	6/14	6/19	7/16		8/5	8/31	9/7

水管理



中干

落水

- 活着するまで深水にして保護
- 田植中はひたひた水
- 切らさない様に注意する
- 除草剤散布後30日程度は水を
- 浅水管理
- 1株20~30本になったら足跡水
- 時期が遅れないようにする
- 中干しの敢行（田植後45~55日頃）
- 中干し直後は走り水
- の間断灌水又は足跡水
- 5~7日に1回水を入れる程度
- 出穂期は水が必要
- 落水が早いと減収する
- 収穫7日前まで土壌水分を維持

重要水管理期間
未熟粒防止の為の

主要作業

- 一発処理除草剤散布
- 1株当り2~5本を目安に）
- 田植（坪当り50~70株・
- 葉いもち病
- イネミズゾウムシ 防除（箱施用）
- （初期除草剤散布）
- 播種量は催芽籾1.5~1.8合
- 塩水選・種子消毒
- （中期除草剤散布）
- （後期除草剤散布）
- イネクロカメムシ防除
- マルチサポート又はけい酸加里
- 登熟向上資材施用
- もんがれ病防除
- 葉いもち予防
- 第二回穂肥
- 穂いもち防除
- 第一回穂肥
- 第三回穂肥
- いもち・カメムシ防除
- ケイカル・ようりん施用
- 堆肥施用
- 土づくり
- 収穫後早期に耕起する
- いる頃
- 一穂に青籾が2~3粒残って
- 適期刈り取り

補植苗を撤去しましょう！

畦畔の草刈をしましょう！

病害虫防除

箱施用の防除（田植時の防除）

イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ

○箱施用による1回防除
バリアード箱粒
移植前日に1箱当り50g施用
○箱施用ができなかった場合の防除
トレボン粒
○10アール当り2kg 5月中旬~6月中旬に施用

イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ・ニカメイチュウ・イネクロカメムシ・葉いもち

Dr.オリゼスタークル箱粒
緑化期~移植当日に1箱当り50g施用
※Dr.オリゼスタークルを使用する場合には、バリアードは必要ありません。

生育中期の防除

葉いもち

○予防は粒剤で防除する
コラトップ粒 3kg
キタジンP粒 3kg
オリブライト豆つぶ 250g
○発生を認めたら直ちに粉剤で防除する
ブラシン粉DL 3kg

穂いもち

コラトップ粒 3kg
フジワン粒 3kg
オリブライト豆つぶ 250g
○穂ばらみ期（粒剤、粉剤）、穂揃期（粉剤）
○オリブライトは収穫前45日まで
（ごま葉枯病予防に効果あり）

出穂期前後の防除

いもち病・もんがれ病・カメムシ類

カスラブバリダスミ粉DL 3kg
○出穂期~穂揃期の夕方に防除する

稲こうじ病

イモチミン粒 3kg
○出穂2~3週間前が散布適期

カメムシ類

スタークル粒 3kg
キラップ粒 3kg
○イネクロカメムシは発生初期6月上旬頃
○斑点米カメムシは出穂期前後

カメムシの食害による斑点米は等級落ちの原因となります。しっかりと防除をしましょう！

※農薬を使用する際は、周辺作物等への飛散（ドリフト）に充分注意してください!!

白未熟粒（シラタ）軽減対策

白未熟粒の発生は、出穂後20日間の平均気温が27℃を超えると急激に増加する。また、発生要因は高温だけでなく、水や日照時間、施肥量不足などの複合的な要因も考えられている。
平均気温が27℃以下になる頃（9月上旬）に出穂時期を迎えるように田植えを行うことが望ましいが、その場合、田植えが6月上旬頃となる。
上記のように作付け時期を遅らせる、もしくは作付け時期の遅い品種に変更することが白未熟粒を軽減させる対策としてはもっとも有効と考えられるが、現状では困難であるため、下記の方法を白未熟粒軽減対策として推奨する。

●土づくり

ケイカルなどの土壌改良資材を収穫後に散布し、根張り良くしっかりとした稲を作り、倒伏や病害虫を発生しにくくし収量・食味を向上させる。

●早期落水の防止

早期に落水する事により土壌水分が低下して、株が枯れ、白未熟粒が発生しやすくなるので収穫7日前までは落水せず、土壌水分を維持させる。

●白未熟粒軽減資材の活用

数年前より、県の農業研究機関にて試験を行なった白未熟粒軽減資材（下記参照）を施用する事により軽減させる（但し、気象条件等により効果に差があります）。

施肥設計

◎コシヒカリ元肥一発（10a）

白未熟粒軽減資材

施用時期	肥料名	施用量
田植10日前~田植時	エムコート022	35~40kg
	セラコートR822	40kg前後

従来品

施用時期	肥料名	施用量
田植10日前~田植時	エムコート824	40kg前後
	セラコートR845	

◎コシヒカリ緩効性肥料（10a）

施用時期	肥料名	施用量
田植10日前~田植時	津安芸水稲化成	25~35kg
	IB化成050	
追肥第1回目（出穂18日前）	NK化成4号	10~20kg
追肥第2回目（出穂7~10日前）	NK化成4号	10~20kg
追肥第3回目（出穂期頃）	NK化成4号	5~10kg
追肥一発（出穂18日前）	グッドIB045	20~25kg

◎その他の品種元肥一発（10a）

品種	肥料名	施用量
あきたこまち みえのえみ	エムコート583（早生用）	40~50kg
みえのゆめ ヤマヒカリ	セラコートR2500（中晩生用）	45~55kg

◎品質・登熟向上資材（10a）

	資材名	施用量	施用時期
品質向上	けい酸加里	20~40kg	出穂前45~35日まで
登熟向上	マルチサポート	20~40kg	出穂前45~35日まで
	FTEミネラス	3~6kg	出穂前35~25日まで

効果
1.活力ある根が張り、稲体を強化し倒伏に強くなります。
2.登熟が高まるとともに粒張りが良くなり、食味向上に役立ちます。

育苗

◎種子の準備 毎年種子更新しましょう。

◎塩水選

◎種子消毒

作業	温度・日数	要点
消毒	15~20℃ 24時間	**みえのゆめ以外の品種** 種籾と同容量の薬液を作る（水20ℓ当り） テクリードCフロアブル…100mℓ（馬鹿苗病・もみ枯細菌病） スミチオン乳…20mℓ（イネカレンチュウ）
		みえのゆめ 種籾と同容量の薬液を作る（水20ℓ当り） モミガードCドライフロアブル…100g（ごま葉枯病（必須）・馬鹿苗病・もみ枯細菌病） スミチオン乳…20mℓ（イネカレンチュウ）
浸種	10℃では 10~12日 15℃では 7日~	水の量は籾の容積の2倍以上とする 始め2~3日は静置、その後1~2日毎に水を換え コシヒカリでは長目に漬ける ※積算温度100℃以上
催芽	30~32℃ 1~2日	ハト胸とし、芽は伸ばさない

（注）テクリードCフロアブルは使用前に容器をよく振ってから使用して下さい。廃液は河川水路に流さないでください。

◎育苗箱消毒 イチバン500~1000倍液に箱をさっと浸ける

◎培土 箱入れ後、乾かさないよう注意しましょう。（1箱当り約3~4kg必要）

◎病害防除

農薬名	時期	1箱当り施用量	備考
タチガレエースM粉	播種直前	6~8g	ムレ苗にも有効
タチガレエースM液	播種時	500~1000倍、500mℓ	ムレ苗にも有効

◎播種 厚播きは苗質を悪くする。催芽籾1.5~1.8合とする。均一に播く。土の表面の水が引いてから播種する。覆土は籾がかくれる程度

◎育苗管理

作業	温度・日数	要点
出芽	30~32℃ 約2~3日	芽の長さ1~1.5cmにする 光を当てない
緑化	日中20~25℃ 夜間15~20℃（保温・暖房） 約3日	緑化は2段階の作業 （1）緑になるまで覆いをする（新聞紙など） （2）箱の部分を3.5cmに伸ばす フジワン粒による健苗育成、ムレ苗予防 播種後3~7日に散布。25~50g/箱 早い程、又薬量が多い程短苗になるので注意 被覆中もカビの突発に注意
硬化	日中15~20℃（換気） 夜間10~15℃（保温） 約15日~20日	日中高温にしないよう特に注意する 緑化用の厚手白ビニールは使わない ハウス・トンネルは一日中日当りの良い場所 灌水は1日1回、1~1.2ℓ/箱 午前中（遅くても15時まで）がよい ハウス内にワラ、モミガラがあるといもち病が伝染する。 箱の下にビニールを敷く場合は穴をあける

土づくり

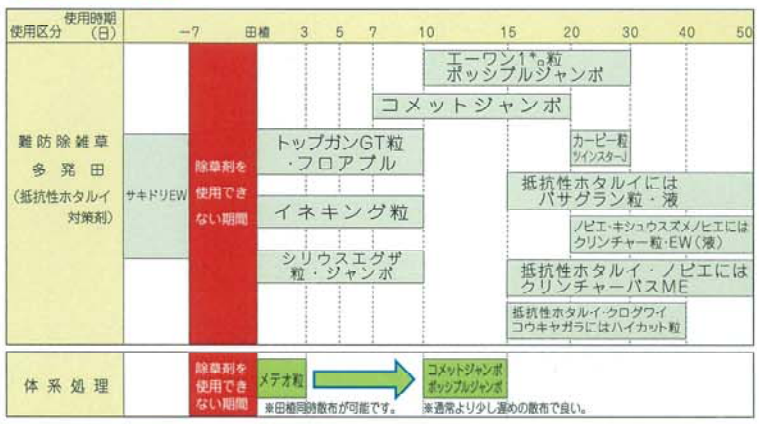
土づくりは品質向上への第一歩です。

(1)有機物の施用 堆肥を連年施用する（年内施用）
1~2トン
湿田、半湿田では完熟のもの500kg
稲わらすき込み
•秋起こし（刈取直後）
•石灰窒素10~20kg（秋起こし時）施用

(2)深耕 作土層を深くする（15~20cm）
下層が不良土壌の場合は行わない

(3)土づくり肥料の施用
ケイカリン 又はリンスターケイカル } 200kg
単品ならケイカル 200kg
又はようりん リンスター } 40kg（黒ボクでは80kg）
コシヒカリには特にケイカルが必要
ケイカルの省力材 ・農力アップなら反当り100kg

除草



除草剤の正しい使い方
•散布適期、散布量を厳守する。
•田面の均平と適正な水管理。

田植え同時散布可能な初中期一発除草剤
•トップガンGT粒
•トップガンLフロアブル
•イネキング粒
•シリウスエグザ粒

ノビエに対する使用時期

農薬名	使用時期
エーワン粒	2.5葉期まで
ポッシブルジャンボ	2.5葉期まで
トップガンGT粒・FL	3.0葉期まで
トップガンジャンボ	2.5葉期まで
イネキング粒	2.5葉期まで
シリウスエグザ粒・ジャンボ	2.5葉期まで
コメットジャンボ	2.5葉期まで

※ムレ苗防止 健苗育成にフジワン粒!! イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ・ニカメイチュウ・いもち病にはDrオリゼスタークル箱粒で!!
※品質向上には、毎年種子更新と土づくりをしましょう!! ※稲ワラの流出防止のため収穫後早期に耕起しましょう!!

防除日誌

使用月日（天候）	使用薬剤名	倍率・量	全使用量	使用目的
月 日（ ）				
月 日（ ）				
月 日（ ）				
月 日（ ）				
月 日（ ）				
月 日（ ）				

作業日誌

作業月日	圃場	作業内容	備考
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			

安全・安心な米づくりのために栽培履歴（防除日誌）を必ず記帳しましょう！ 農薬の安全使用基準を守りましょう！